

武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会（第13回）

■日時 令和5年5月25日（木） 午後7時～午後8時33分

■場所 市役所412会議室

出席委員：渡邊委員長、岡部副委員長、久留委員、鈴木委員、中村委員、箕輪委員、  
吉田委員、伊藤委員、恩田委員

欠席委員：木下委員、古賀委員

1. 開 会

委員長が開会を宣言し、企画調整課長が配布資料について説明した。

2. 議 事

（1）討議要綱に関する市民意見等の総括等

①無作為抽出市民ワークショップ（令和5年3月）の実施報告

企画調整課長が、資料1-1「無作為抽出市民ワークショップ（令和5年3月）の実施結果について」に基づき、概要、主な意見について説明した。

【A委員】 今後、市政の情報提供や共有でもオンラインの活用が検討材料として上がってくるのに、今回オンライン参加のほうが少ない理由について、事務局はどう考えるか。

【企画調整課長】 この策定委員会が設置される前の令和4年5月にも、オンラインと対面でのワークショップを実施した。そのときはコロナの流行状況もあり、オンラインの申し込みのほうが多かった。今回のワークショップは、コロナが落ちついてきていたためか、オンライン形式の申し込みが非常に少なかったため、対面形式に申し込まれた方に、差し支えなければオンラインのほうに移っていただけないかという案内を差し上げて、対面31名、オンライン24名になった。ワークショップをオンラインでというイメージが湧きにくかったため、対面形式のほうが多くなったのではないかと考える。

【A委員】 これはDXがまだ浸透していないと捉えればいいのか、そもそも関心がないと捉えたほうがいいのか、悩ましいところだ。引き続き検討の材料としたい。

【委員長】 討議要綱に関する市民意見交換会のときも、オンラインが思ったより少な

った。同じようなことは、学会などの学術研究会や発表会にもある。オンラインの場合、皆さん、関心を持って事前登録するが、リアルの参加に比べると、参加率は低い。オンラインは、気軽に登録するが、気軽にパスもするという行動パターンがあるようだ。ただ、集まらないからと、すぐやめてしまうのではなく、直前の周知など幾つかの仕掛けを工夫してほしい。参加者が少なかったという経験も重要である。

【副委員長】 オンライン開催にはリマインドやプッシュ型のコールが必要だ。オンライン申し込みに対してリマインダーを打てる環境はあるのか。

【企画調整課長】 URLをお知らせしなければいけないのと、オンラインに不安な方のために「ログインの環境を確認しておきましょう」というご案内を直前にしているので、当日うっかりということはないと思うが、入ってこない方はいらっしゃった。しかし、それは対面も同じで、何の連絡もなく欠席という方はおられる。

【B委員】 オンラインと対面で、参加者の発言率や内容、応対に違いはあるか。

【企画調整課長】 会場での対面形式とオンライン形式とでは、場の空気感の伝わりにくさに違いがあるようだ。ファシリテーターがうまく整理するが、対面のほうが会話の量は多かった。意見の質は特に変わらない。

【委員長】 対話をしながら出てきた意見は、意見を持った方の意見ともまた少し違う。詳細は報告書をご確認いただきたい。

## ②計画案作成に向けて議論・確認が必要な事項

企画調整課長が、資料2「計画案作成に向けて議論・確認が必要な項目」について説明した。

【委員長】 緑・環境分野の「若者世代に対する緑への意識醸成（教育）」で、「若者世代に対する」と強調されている理由は何か。

【企画調整課長】 ここにあるキーワードは、これまでの意見交換やパブリックコメントで出てきたものである。意見交換で、若者世代に対する緑への意識醸成の取組みが、学校教育ではないところでも必要なのではないかという意見を捉えて記載した。

【委員長】 教育というよりは体験も含む形、あるいは学びと言ったほうが良いような、

広い意味で若者の意識醸成の機会を考えてはどうかというご意見があった気はしたが、「(教育)」とあるので、学校教育のように見えた。

【副委員長】 緑は、昭和 48 年に武蔵野市民緑の憲章を定めて以来の岩盤施策だ。公園内等で活動する緑団体の多くは、発足から長年活動し続けているが、最近ではメンバーが高齢化し、後継者がいないなどで、団体によっては解散や事業縮小傾向にある。ただ、緑の憲章は盤石なものとして今後も続けていくべきである。継続的な活動につながる支援を進めるため、市民と連携し、組織の若返りを図ることが大事だということが書かれているのだと私は勝手に理解した。若い世代にも広がるように頑張ろうということではないか。

【委員長】 「(教育)」と書いてしまうと、教育に引っ張られかねないので、表現は考えたほうがいい。

【A委員】 今回、意見交換を通して子育て支援、少子化対策的なことが非常に多かった。しかし、資料 2 は、子ども・教育分野で「学校給食費無償化」、健康・福祉分野で「学齢期後の障がい児者への支援拡充」は書かれているが、「少子化対策」や「子育て支援」というワードがない。ここに並ぶワードはどのような考え方による整理か。資料 3-2 との整合性はどのようにしているのか。

また、平和・文化・市民生活分野の「多様性」について説明してほしい。多様性にはいろいろな捉え方がある。「多様性」とだけ書かれていると、よくわからない。

【企画調整課長】 事務局で、1,000 件を超える意見の中から言葉を拾って、結果的に「子育て支援」、「少子化対策」という言葉は選ばなかったが、ここにそういう言葉を入れるのもよいと考える。

「多様性」は、意見交換会では出てこなかったが、気になることとして委員会で共有したワードをここに位置付けた。

【総合政策部長】 計画案に向けた議論で「子育て支援」はくくりが大きい。「少子化対策」は、市でできることをどう考えるかということとセットのところがある。ただ、大事なことではあるので、入れることとしたい。少子化対策をどうするかという話は今後の議論で出てくると思う。

「多様性」は、市の施策、計画とつなげると、ダイバーシティの部分が主な論点になる。ただ、今回、事務局はあえて絞らずに、皆様のご意見をいただくためにここに提示した。

【A委員】 「少子化対策」、「子育て支援」については理解した。「多様性」についても

理解したが、「多様性」の裏返しとして「共生」ということも、避けて通れない議論だ。

【委員長】 「多様性」は、委員会だったか作業部会だったかは覚えていないが、私が出した。コロナ禍で、海外の方に対する意識が一時期向いていなかったが、今後は日本国籍を持たずに市に住む海外の方々が増える。多様な文化や背景を持つ方々との共生を改めて考える必要があるということを指摘した。確かに「多様性」だけだとわからない。表現を考えたい。

【B委員】 都市基盤分野に出された意見は、生活に直結したものだと思ったと思う。都市基盤は解決まで長期にわたる。また、都市計画等の予備知識がないと食い込めないためか、市民からの意見はあまり出てこない気がした。しかし、都市基盤分野はいろいろ課題を抱えている。市民意見として出た項目以外のことをどう拾うかは別途検討しないといけないと思い、私は今週、水道、都市計画道路の問題について個別にレクチャーを受けている。

【企画調整課長】 次回作業部会では、これらのキーワードを意識しながら、また、ここにはないものについても、各分野所管の部課長に積極的にヒアリングをしていただきたい。

【委員長】 確認が必要な項目について、作業部会の各部ヒアリングでの議論を通して考えることとする。

## (2) 調整計画案の構成について

企画調整課長が、資料3-1「計画案の構成(案)」、資料3-2「調整計画全体に関わる視点(案)について」について説明した。

【副委員長】 第六期長期計画から第七期長期計画に向けて、社会情勢が大きく変わったことを受けて新たな計画をつくり込んでいくのが今回の調整計画だ。以前はICTと言っていたデジタルトランスフォーメーション(DX)を、コロナで認識することとなったが、オンライン配信の活用度は今後さらに加速する。私は六長の際に、武蔵野市役所の物理媒体はどこにあるのかとほとんどの市民に思われるくらいのことを長期的に目指すべきだと言った。そういう視点は資料3-2の(1)～(4)に書き込まれるのか。

【企画調整課長】 (4)「『新型コロナウイルス感染症の経験』を踏まえた視点」に盛り込まれることになると思う。今は2行ほどで簡単に説明しているが、計画案にするときは

もっと膨らませて書く。

【副委員長】 皆さんにとっては（４）かもしれないが、コロナは契機になったということであって、DX推進とは意味合いが少し違う。

【C委員】 （４）『新型コロナウイルス感染症』の経験を踏まえた視点」を新たな視点に入れるということには、私も正直、疑問を持っている。確かに、きっかけにはなったし、市民の関心が高い分野かもしれないが、これは過去の話ではないか。

今後も、新型コロナのような大型な何かは起きるだろう。それは大震災かもしれないし、技術的なイノベーションで、今あるものが全部陳腐化してしまうというようなことかもしれない。新型コロナは、大きなことではあるが、４つしかない中にわざわざ書くとしたら、それはDXではないか。外部環境の大きな変化にも柔軟な組織設計、制度運営、技術の導入を図る、そのためのチャレンジをするという大きなことだ。新型コロナでまとめるのはあまりにも矮小化している。大事なコンセプトは、市民と行政との関係を構築して、いい地域施策を展開する、そのために必要なものとして、例えば市民自治のあり方の視点を入れる、そのためには情報共有もしていかなければいけないなどの観点で切っていくのではないか。

【委員長】 健康・福祉を専門としている人間としては、コロナ感染症の経験は過去でも何でもなく、むしろ今まさに直面している問題だ。教育環境も同様で、コロナの経験を入れること自体、私は問題ないと思うが、DXはコロナの経験に入れるべきことではない。場合によっては５つ目を出しても構わないのではないか。

【D委員】 コロナが過去のことでないというのはわかるが、七長までの調整計画にコロナだけを項目として取り出すのでは、少し足りないと感じている。今年も気象が厳しくなるし、災害もある。コロナのときは、想定できないこともあり後追いになった政策があった。保健所あるいは都との情報交換が不十分で、市だけでは対策がうまくいかないこともあった。今後はどんな災害が起きるかも含めて先読みして、デジタル化の推進、ネットワーク構築ということを具体的に書き込まないと、進捗状況が見えてこない。DXについて、五長のときから言い続けていても、討議要綱にも具体化されていない。市の政策としてこういうところのDXを進める、この分野ではこういうことをしたいという目標のようなものを小分けして見えるかたちで盛り込まないと、なかなか進まない。

【A委員】 資料３－２の（４）『新型コロナウイルス感染症の経験』を踏まえた視点」

で大事なものは「踏まえた視点」のほうである。「新型コロナウイルス」のほうに着目すると、おかしなことになる。今回我々は、物理的にその場所に行けないとか、そこにいけないことや非接触の解決策として、デジタルの活用が非常に有効だということを学んだ。一方、健康・福祉分野、子ども・教育分野では、感染症は常にそこにある危機だ。保育所や高齢者福祉分野、病院などでは感染症はいつも起きている。医療機関には常に医師や看護師がいて、すぐ対応できるのに対して、保育現場や福祉の現場は、コロナ禍ではそういう状況になく、医療機関が受け入れてくれないために、まさに竹やりで戦うような状態だった。これは、情報共有の視点にもつながる話である。

先ほどの「多様性」や共生社会の話は、自治のあり方とも絡む。(1)は「市民自治のあり方」というワードではなくて、市民がいかに多様性を認めつつ共生していくのかという視点で書いたほうが、すんなりした形になるのではないか。

**【E委員】** (4)の『「新型コロナウイルス感染症」の経験を踏まえた視点』は「施策の展開を行うとともに、市民・議会・行政の『対話』や『話し合い』」と書かれていて、情報共有と、新型コロナの経験を中身としている。

何を踏まえて横串にするのかということで、(1)「市民自治のあり方」、(2)「情報共有」、(3)「学び」の視点で整理するといいい。

**【企画調整課長】** 1,000を超える意見をいただいた中で、どういうところが言えるか、事務局内でもディスカッションした。今後議論を進める中で、横串の話と、今後の個別分野についてをブラッシュアップする。現時点では(1)～(4)の視点を考えてみたが、今日いただいたご意見もあわせて事務局で議論し、さらに修正をかけて、計画案を練ることとする。

**【委員長】** 事務局が膨大な議論と大変な苦勞をしながら、様々な分野に関連する視点を抽出してくれた。この努力を踏まえたうえで、我々はいいい形でブラッシュアップしていく。特に、市民自治や情報共有、学び、あるいはコロナ、さらにデジタル対応の視点から、全分野の記載の洗い出しをする。調整計画全体に関わる(5)が要るかもあわせて考えたい。

**【副委員長】** 今、我々はデジタル化の革命の真ただ中にいる。昨今のデジタル、特にAIやネットワーク環境の進歩は変化が急激である。まさに六長から七長に向けて動く調整計画で対応すべき案件だ。

【委員長】 AIは、我々が討議要綱をまとめたところからも大きく変わっているぐらいの勢いであることを踏まえる必要がある。

【A委員】 資料3-1の調整計画の4の(2)「将来人口推計」で、私は人口そのものよりも世帯構成について関心を持っている。世帯数は、武蔵野市で増加しているが、平均世帯人員は減少していて、私がこれまで何度も指摘してきたように、2を切っている。つまり、1人世帯、2人世帯が増えている。2人とも働いていれば、昼間は家に誰もいない。ボランティアのなり手がいないということにも関わってくる。ところが、行政施策は依然として夫婦2人・子ども2人を平均的な世帯として構築していて、施策が追いついていない。家庭内介護力、家庭内保育力等、家庭の中で行われていた様々なことが担えなくなっているという現実を市民に認識していただくべきである。人口が増えるということだけではないところをもう少し強く書いてほしい。

【委員長】 事務局の説明で私が気になっているのは、第五期長期計画・調整計画の「重点取り組み」である。

第五期長期計画には「重点施策」があり、第五期長期計画・調整計画では「調整計画の重点的な取り組み」として、調整計画の中で策定委員が特に重視したい6項目をそれぞれ書いた。ただ、第五期長期計画は、長期計画条例ができて初めての長期計画で、整理ができていないところがあり、「重点施策」と「重点取り組み」はどっちが大事かという話になってしまった。

今の事務局の説明では、議決事項の「重点施策」はそのまま維持して、「重点取り組み」は記載しないという提案だった。ただ、調整計画として推したい部分がある場合には、「重点取り組み」のようなものがあつたほうがいいのかも。これは議会への説明なら今の提案でいいが、初めて読む人にとっては、調整計画の中に「重点取り組み」があつたほうがいいのかもある。

【F委員】 五長のときに条例をつくって、五長調が初めての調整計画だった。わかりやすく示したほうがいだろうということで「重点取り組み」をつくった気もするが、同時に横串ということがずっと議論になっていて、五長調で横串の表を入れた。

六長は、事務局が説明したとおり、「重点施策」を10年間を見据えて示しているのに、「重点取り組み」は、ないほうがすっきりするのではないか。

【A委員】 これまで総合政策部長や企画調整課長から、第六期長期計画に書かれていることは、討議要綱に書いていなくても、そのまま生きているというご説明が何度かあった。ということは必然的に「重点施策」も調整計画に連なる。それをあえてこのような形で書くかというご提案だと思う。「重点施策」をなくすという話ではないと受けとめている。今この議論を聞いている人たちにも誤解を招くことのないよう丁寧に説明してほしい。

【企画調整課長】 六長の「重点施策」を今回の六長調でも記載することを前提としたうえで、調整計画に「重点取り組み」を書くと、わかりにくいのではないかと。また、六長の「重点施策」は10年間を見据えたもので、今回の令和6年度から始まる調整計画も含まれる。調整計画における「重点施策」あるいは「重点取り組み」という、六長とは別のものをあえて打ち出すことは、要らないという事務局提案だが、今後、総論と各論とのキャッチボールをしながら、やはりここは必要だというものを出していくことは可能性としてあってよいと考えている。

ただ、第六期長期計画は非常によくできていると思うので、六長計画書の43ページのような「重点施策」がもう終わったとは思っていない。現時点においても、令和6年度からにおいても、生かされるのではないかと。

【委員長】 第六期長期計画の8つの「重点施策」で大きく変更しなければいけないところはほぼないと思う。ただ、調整計画で重点を置いたところは書く必要がある。

先ほどのデジタル化は、書いていいポイントかもしれない。コロナ感染症に関しても、明確な形で社会変化があったということで、項目としてあっていい。社会変化を踏まえた視点をどれぐらいの強度で今回の調整計画の策定に盛り込むのかで、対応は変わる。

【副委員長】 六長の「重点施策」は、しっかり書き込んでいると思う。このときはコロナで3年間の活動停止に追い込まれるとはみじんも思っていなかった。しかし、コロナによって、DXの重要性を皆さんが理解するところとなった。今は全く違うイノベーションのところに入っていて、皆さんの生活が大きく変わった。8つの重点施策には全くカバーされていない重要な案件だ。また、感染症のことやデジタル化以外にも、まさかロシアが戦争を仕掛けて東西分断の危機になるとは思わなかった。しかも今は台湾有事までも想定される。世界における東西分断、サプライチェーンの混乱まで書き込む必要はないとしても、このところ全く考えていなかった大きな変化が起こっていることは認識しなければいけない。



【F委員】 五長調のときは、五長のとくと多少変えたほうが良いという議論があつて、例えば五長の「重点取り組み」の地域リハビリテーションの推進を、五長調では、わかりやすいように、まちぐるみの支え合いの仕組みづくりと変えた。また、五長の重点施策にあった新クリーンセンター建設は五長調のときには終わったので、五長調の「重点施策」には記載しなかった。今回は六長の8つの「重点施策」をそのまま生かしてもいいだろうという判断もあり、新たな「重点取り組み」はやめようというのが今の議論である。

【委員長】 第五期長期計画は、「重点施策」の抽象度がやや違う。第六期長期計画は、少しぐらい施策が変わっても高い耐久性を持つようにつくった。調整計画は、性質上、ここだけは調整しなければいけないということを強く打ち出す。今後のヒアリング等を通して、打ち出したいことを見やすい形で、どこに、どれぐらいの強度で出すのかを皆さんと考えることとしたい。

【C委員】 今ここで掲載されている「重点施策」は、そもそも10年間有効になるよふにということ、具体のところは回避して、相当程度読み込める幅を持たせた。調整計画は、残り5年がターゲットだ。具体性は随分変わる。同時に、前半5年間も特殊解になっている。コロナというとてつもないものが起きてしまったので、やりたかつたことができなかつたということが結構あつたが、通常の長期計画であれば、前半5年間でこれをやつたというものが相当程度出る。今回は、10年計画のうち前半5年間でここまでの実績が出たが、残り5年間は、取り組めていなかつたことを取り返していくという書き方にして、同時に時点修正を行う。10年の「重点施策」と、前半5年間でやつたこと、後段の5年間にやることは、立ち位置が全く違う。10年間のところが曖昧性を持っているなら、残り5年間は、より具体性を持たせる。調整計画で焦点を当てたところは、例えば「5年間集中施策」、「5年間における焦点」という言葉にかえて取り組むのが本来あるべき姿ではないか。

【委員長】 10年間を見据えて書くのか、5年間を見据えて書くのかで書き方が変わるというのは全くおっしゃるとおりだ。5年間を見据えて書くことと、七長以降を見据えて書くことでもそれぞれ変わる。とはいえ長期計画であるので、長い時間軸で考えなければいけないところを意識して、無理に5年にとらわれないで書く。特に大きく変わったところを考えていきたい。

5「調整計画全体に関わる視点」は、視点の表現、デジタル化に関する部分について、

次回以降の計画案策定で議論する。

(3) その他

①各部ヒアリングの実施について

企画調整課長が、資料4「調整計画期間における課題と方向性」について説明した。

【委員長】 資料はいつごろ送付されるのか。

【企画調整課長】 明日送付を目指している。

【A委員】 これまでもお願いしてきたことだが、ヒアリングの際は、権限のこと、市単独でできること、都に相談しなければできないことについて、特出しで説明していただくと、議論がしやすくなる。

【総合政策部長】 事前に本部長ヒアリング等をしている。都の規制がかかったものもあるが、市の権限でできるものを中心にしているので、そうではない部分、支障のある部分についてを特出ししてご説明する。

【委員長】 各部の部課長全員にお集まりいただいて聞ける最後の機会を有効活用できるように、委員各位でご準備いただきたい。

企画調整課長が、5月28日(日)開催の中高生世代との意見交換の時間と場所について説明した。また、6月以降の調整計画案公表までの流れについて説明した。あわせて、「季刊むさしの」夏号に掲載される第六期長期計画・調整計画策定委員会に関する記事について紹介した。

【委員長】 調整計画案の策定とあわせて、パブリックコメント、市議会議員、市民、関係団体との意見交換を通していただいたご意見にコメントするという作業をする。ワーキングを中心に各担当の方々には大変なご苦勞をおかけすることになるが、一緒に考えていくこととする。

「季刊むさしの」については、先日、箕輪委員、古賀委員とオンライン上で鼎談した。6月末には皆様のお手元に届くと思われる。

【C委員】 無作為抽出市民ワークショップの報告書を読んだ。このワークショップでは、

ファシリテーターの方たちにとってもよくやっていただいた。ファシリテーターの方たちに私たちはお礼を申し上げないといけないのではないか。ファシリテーターの方たちはどうやってあの技術を学んだのか。また、そのプログラムはどうなっているのか。自発的に学んできた人たちを事務局が選び出したのか。当日ご苦勞されたことや、次回に向けた改善点には私たちも学ぶべきものがある。お忙しい方々だと思うので、委員会の場に来ていただけるかどうかはわからないが、可能であればそういった場を設けていただけると、ありがたい。

【企画調整課長】 第六期長期計画のときに実施したワークショップも、コミュニティ未来塾むさしのでファシリテーションを学んだ市民ファシリテーターの方をお願いした。今回も未来塾の卒業生の方々にお願いし、あわせて今回の六長調からオンライン形式を取り入れたこともあり、市報で新たに研修受講者を募集するなど、新しい方3名に加わっていただいた。このうち2名は無作為抽出ワークショップに参加した際に、ファシリテーターの方を見て、自分もやりたいと言っておられた方にこちらから声をかけさせていただき、研修を受けていただいた。

【C委員】 武蔵野市の市民自治のインフラを支えていただける専門家の方たちがいらっしやるというのはとても貴重だ。さらに増えることを願っている。

【委員長】 報告書の66ページ以降には、市民ファシリテーターのご意見が出ている。ワークショップのどういうところがよかったか、どういう課題があるかというご意見は参考になる。こういう地域の資源とも言える方々に、やってよかったとさせていただくことも重要だ。またやりたいと思えるような様々な仕掛け、取組みを行っていただきたい。

以上の議事を経て、委員長が第13回武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会を閉じた。

以 上